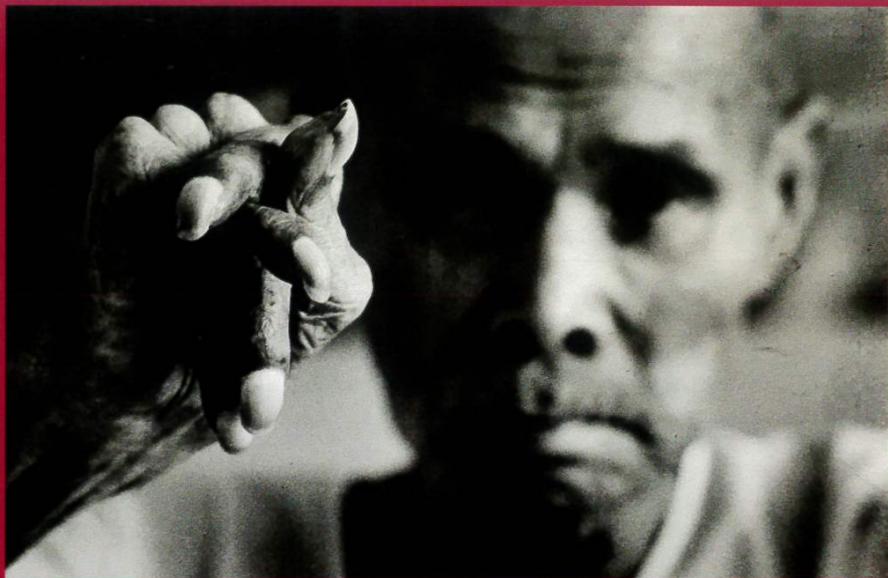


元網元の漁師・船場岩蔵さんの硬直し変形した手。1970年

小児性の患者・田中実子さんと介護の姉を自宅裏の船着場で。1986年



## 桑原史成写真展「水俣病 命の記録」

# いまを生きる私たちと水俣

水俣病センター相思社パネル展



豊田有希写真展「あめつちのことづて」



## あなたに見てほしい写真がある。

フォトジャーナリズム展三重2022

8月11日(木・祝)～14日(日) 10:00～17:00

津リージョンプラザ 3階展示室

**入場無料**

会場内にて永野三智(相思社)トーク開催

8月11日、12日、13日は13:30から  
8月14日は10:30から

主催:フォトジャーナリズム展三重 (連絡先 080-5100-5448)

協力団体

市民メディアネット、平和憲法を世界に拡げるネットワーク in 三重、戦争をしない・戦争協力もしない三重ネットワーク、アムネスティ国際三重グループ、フェアトレード「抱」、チェルノブイリ被曝者支援の家「チェル」、三重県ユニセフ協会、辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会、四日市再生「公害市民塾」

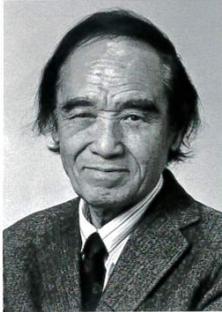
新型コロナウイルス感染拡大予防対策を実施しています。マスク着用、手指消毒、検温にご協力ください。

minamata1.jpg  
(1654 X 2338)

## いまを生きる私たちと水俣

ユージン・スミスを描いた映画『MINAMATA』、原一男監督『水俣曼荼羅』が上映され、「水俣病」が注目を集めています。すでに忘れられようとしている「水俣病」とは何であったのか、現在の私たちとどうかかわっているのかを問うため、今年の「フォトジャーナリズム展三重2022」では「水俣病」について多くの方に考えていただく場をもちました。桑原史成と豊田有希の写真、そして「水俣病センター相思社」のパネルと永野三智のトークから「水俣病」の歴史と現在を知ってください。

### 桑原 史成 (くわばら・せいせい)



1936年 島根県津和野町に生まれる  
 1960年 東京農業大学および東京総合写真専門学校卒業  
 1962年 初の写真展「水俣病」を開く 富士フォトサロン(東京)  
 1963年 日本写真批評家協会新人賞受賞  
 1965年 写真集『水俣病』(三一書房刊)  
 1970年 写真集『水俣病1960~1970』(朝日新聞社刊)  
 2004年 『桑原史成写真全集 第一巻「水俣」』(草の根出版会刊)  
 2013年 写真集『水俣事件』(藤原書店刊)  
 2014年 土門拳賞受賞  
 2021年 写真展『MINAMATA』 E&Mギャラリー-西麻布(東京)  
 その他の主な撮影テーマ 「筑豊炭田」「激動の韓国」「沖縄」「ベトナム戦争」「北朝鮮」「カンボジア」「アフガニスタン」「旧ソビエト連邦の崩壊」など  
 「桑原史成写真美術館」  
 〒699-5605 島根県鹿足郡津和野町後田イ71-2

### 豊田 有希 (とよだ・ゆうき)



1987年生まれ。熊本県熊本市出身。2015年より水俣市在住。  
 高校時代から独学で写真を始め、2012年から本格的な活動を開始。その土地の風土や暮らしを見て得るだけでなく感触として得ていきたいと考え、現在は住んでいる地域の周辺を主なフィールドとして撮影を行なっている。潜在化する人権や差別など社会問題を根底にもちつつ土地や人物の在り方を同時に表現することを目指している。

### 一般財団法人 水俣病センター相思社

〒867-0034 熊本県水俣市袋34 TEL 0966-63-5800 FAX 0966-63-5808

1974年に日本と世界からの寄付によって設立されたNGO。水俣病患者家族及び関係者の生活全般の問題について、相談に応じ、解決に預かるとともに、水俣病に関する調査、研究活動を行う。

(活動概要) 水俣病患者や関係者からの聞き取り活動、聞き取り集の作成、水俣病歴史考証館の運営、ツアーのコーディネート及び実施、講演会の開催・出張講演水俣病関連書籍・低農薬柑橘類・無農薬茶・低農薬林檎等の販売、水俣病学習・環境学習のための教材作成、機関誌「ごんずい」の発行、水俣病関連資料の収集・整理・活用、ホームページによる情報発信。

### 永野 三智 (ながの・みち)



1983年熊本県水俣市生まれ。2008年一般財団法人水俣病センター相思社職員になり、水俣病患者相談の窓口、水俣茶やりんごの販売を担当。同法人の機関紙『ごんずい』に「患者相談雑感」を連載する。2014年から相思社理事、翌年から常務理事。2017年から水俣病患者連合事務局長を兼任。『みな、やっとの思いで坂をのぼる—水俣病患者相談のいま』は初の単著

## フォトジャーナリズム展三重

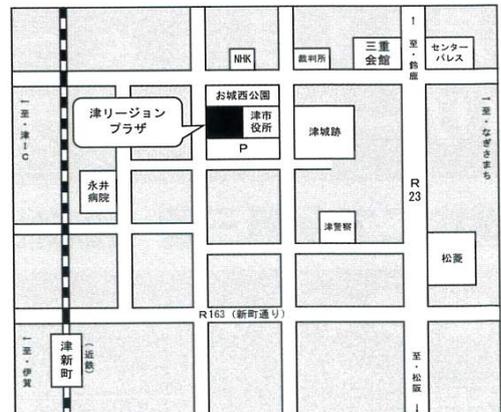
2010年から毎年、三重県津市でフォトジャーナリズム展(報道写真展)を開催しています。(2020年はコロナ禍のために休止) 2018年までは「DAYS JAPAN 国際フォトジャーナリズム大賞」の受賞作品を中心に紹介してきました。2019年からはフォトジャーナリスト個人にスポットを当てて紹介し、19年には反骨の写真家・福島菊次郎の生涯にわたる作品を紹介しました。2021年には精力的に取材、問題提起をしているフォトジャーナリスト・伊藤孝司氏の集大成ともいべき写真展「わたしたちの知らないアジア ヒロシマから平壤へ」を開催しました。  
 なかなか報道されることのない国内外の様々な事柄に広く目を向けたい、真実を知りたいという欲求からこの活動は始まりました。そしてその情報を市民のみならずとも共有したいとの思いから、無料での開催にこだわって実施してきました。完全なボランティア活動で、有志の皆さまのご寄付によって、この写真展とそれに付随する講演会、学習会を実施しています。

「フォトジャーナリズム展三重」は、賛同してくださる皆様からのご芳志によって運営されています。ご協力をお願いします。

郵便振替口座 名義：フォトジャーナリズム展三重  
 番号：00830-1-198681  
 ★お名前公表の可否をお知らせ(お書き)ください。

## 同時開催

公募による「憲法とわたし」作品展(市民メディアネット)  
 四日市公害パネル展(四日市再生「公害市民塾」)



津リージョンプラザ 津市西丸之内23-1 TEL 059-229-3300 [近鉄 津新町駅から徒歩約10分。無料駐車場あり]

minamata2.jpg  
 (1654 X 2338)